

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会保障制度		介護福祉学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	23回	3単位(46時間)	必須	坂井 利成
授業の概要				
高齢者や障害のある状態の人を含め、すべての人間が人間として生きることを保護されていることを理解する。				
授業終了時の到達目標				
様々な社会保障制度のしくみを理解し、社会全体で支えることの意義について自分の考えを表明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントの復習をしておくこと				
回	テーマ	内容		
1	社会保障の概念	社会保障のしくみ、概念の理解		
2	社会保障の役割、意義、理念、対象	社会保障の役割、意義、理念、対象などについて学習する		
3	憲法13条、憲法25条	生存権、幸福追求権について学習する		
4	社会保障制度の今後	社会保障制度の問題点、今後の社会保障制度の在り方について考える		
5~6	要介護者数の推移、介護保険制度の目的	介護保険法第1条について学習する 介護保険制度創設の背景、要介護者数の推移について学ぶ		
7~10	介護保険制度の全体像	介護保険制度の全体像について学ぶ		
11~12	保険者と被保険者	保険者の役割、被保険者の要件について学習する		
13~14	介護サービス利用までの流れ	申請から認定までの流れを学ぶ		
15~16	介護サービスの種類	居宅、施設サービスについて学ぶ		
17~18	組織、団体、専門職の役割、今後の動向	介護保険に関係する組織、団体、専門職について学ぶ		
19~21	障害者自立支援制度	障害者自立支援制度の全体像、背景、サービス利用		
22~23	介護実践に関する諸制度	権利擁護、保険医療施策、医事法制		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉養成講座 第2巻 中央法規出版 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 テキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト: 6 0% 平常点: 4 0%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コンピュータリテラシー		介護福祉学科/2年	2021/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	23回	1.50単位(46時間)	必須	高吉 亮平
授業の概要				
情報社会の本質を理解し、パーソナルコンピュータを中心とした情報機器の使用方法を学び、日常的に利用できるようにする。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ パーソナルコンピュータを中心とした情報機器の使用に慣れ、資料作成等に利用できるようになる。 ・ インターネットを使った情報検索が手早くできるようになる。 ・ メールを始めとして、情報通信の仕方をマスターする。 ・ Word、Excel、PowerPointの基本機能を理解し、基本的な操作をマスターする。 				
実務経験有無	実務経験内容			
	介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	①情報化社会について 1. 情報化社会について	情報化社会について学習する		
2	2. Windows 入門	Windowsについて基礎的な使用方法について学ぶ		
3	②インターネットについて	情報検索、メール技術の基礎的方法について学習する		
4	③Word Word 1	Wordの基本操作を学ぶ		
5	Word 2	例にそって文章を作成する		
6	Word 3	例にそって文章を作成する		
7	Word 4	例にそって文章を作成する		
8	Word 5	例にそって文章を作成する		
9	④Excel Excel 1	例にそってシートを作成する		
10	Excel 2	例にそってシートを作成する		
11	Excel 3	例にそってシートを作成する		
12	Excel 4	例にそってシートを作成する		
13	Excel 5	例にそってシートを作成する		
14	⑤PowerPoint PowerPoint1	PowerPointの操作方法について演習を通して理解する		
15	PowerPoint2	PowerPointの作成方法、デザイン変更について理解		
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜資料、プリントを配布		課題・レポート	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護の基本Ⅲ		介護福祉学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	坂井 利成
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。 ・介護従事者の心身の健康管理について理解する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・安全の概念を予防・自立の点から考察し、安全対策のあり方を理解し説明でき、個別に対応ができるようになる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①介護における安全の確保 1. 観察	リスクマネジメントにおける観察の重要性について学ぶ		
2	2. 正確な技術	安全を確保する上での介護技術の重要性を説明する		
3	3. 予測、分析	グループワークを行い、安全管理をする上での予測、分析方法を学習する。		
4	②事故防止、安全対策 4. 安全対策	具体的な安全対策について学習する		
5	5. 転倒、転落、骨折予防	転倒、転落の原因、対策について学習する		
6	6. 利用者の生活の安全、防火・防災対策	防火、防災管理について学ぶ		
7	③感染症対策 7. 感染予防の意義と介護、感染予防の基礎知識と技術	感染予防の意義、基礎知識、技術を学習する		
8	8. 感染管理、衛生管理	感染管理、衛生管理の重要性を管理する		
9	④介護従事者の心身の健康管理 9. 心の健康管理 1	介護従事者のストレス、こころの健康管理について学習する		
10	10. 心の健康管理 2	介護従事者のストレス、こころの健康管理について学習する。		
11	11. 心の健康管理 3	介護従事者のストレス、こころの健康管理について学習する		
12	12. 身体の健康管理 1	腰痛および身体の健康管理、維持、教科の方法について学習する		
13	13. 身体の健康管理 2	腰痛および身体の健康管理、維持、教科の方法について学習する		
14	14. 労働安全	労働における安全管理の制度、対応方法などを学習する		
15	⑤リスクマネジメント 15. まとめ	介護における安全管理の重要性をグループワークで、理解を深める。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第3巻 第4巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション技術Ⅱ		介護福祉学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	高吉 亮平
授業の概要				
・他職種間とのコミュニケーション技法を学び、習得する				
授業終了時の到達目標				
・介護におけるチームのコミュニケーションに必要な記録や報告等について学び、その技術を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として6年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	チームのコミュニケーション①	チームのコミュニケーションとは、 チームのコミュニケーションの方法		
2	チームのコミュニケーション②	【演習】チームのコミュニケーションの必要性 【演習】チームへの報告		
3	記録①	介護における記録の意義と目的、介護における記録の種類		
4	記録②	記録の書き方と留意点、記録の活用		
5	記録③	情報の保護と管理		
6	記録④	【演習】介護記録の書き方 【演習】介護記録等の作成		
7	記録⑤	ICTを活用した記録の意義と留意点		
8	報告・連絡・相談①	報告・連絡・相談の意義と目的、 報告・連絡・相談の具体的な方法と留意点		
9	報告・連絡・相談②	【演習】チームのコミュニケーションにおける報告・連絡・相談の必要性		
10	報告・連絡・相談③	【演習】報告・連絡・相談のための情報収集		
11	会議①	会議、会議の種類と運用		
12	会議②	【演習】チームのコミュニケーションにおける会議の必要性		
13	会議③	【演習】職場内ミーティングの体験		
14	まとめ①	【演習】2年間のコミュニケーション技術をふり返る		
15	まとめ②、試験対策	まとめ①の続き、試験対策		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第5巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅱ		介護福祉学科/2年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	高吉 亮平
授業の概要				
・利用者がその人らしい生活を営むために必要な、介護技術を学び、個別に対応できる能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ニーズを理解し、優先順位を考えることができる。 ・ICFの視点にもとづいて、介護技術を活用できる。 ・自立に向けた介護技術を提供できる。 ・他職種の役割を理解できる。 ・ターミナルケアについて考えることができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として6年の実務経験あり これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布したプリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①入浴、清潔保持の介護 1. 入浴の意義と目的、アセスメント	入浴の意義と目的、アセスメントについて学ぶ		
2	2. 爽快感、安楽を与える介護	爽快感、安楽を与える介護について学ぶ		
3	3. 安全で快適な入浴方法	安全で快適な入浴方法について学ぶ		
4	4. 利用者の状態、状況に応じた介助の留意点1	利用者の状態、状況に応じた介助の留意点について学ぶ		
5	5. 利用者の状態、状況に応じた介助の留意点2	利用者の状態、状況に応じた介助の留意点について学ぶ		
6	6. 他職種の役割と協働	他職種の役割と協働について学ぶ		
7	②睡眠の介護 7. 睡眠の意義と目的、アセスメント	睡眠の意義と目的、アセスメントについて学ぶ		
8	8. 安眠のための介護	安眠のための介護について学ぶ		
9	9. 安眠を促す介助の方法	安眠を促す介助の方法について学ぶ		
10	10. 利用者の状態、状況に応じた介助の留意点	利用者の状態、状況に応じた介助の留意点について学ぶ		
11	11. 他の職種の役割と協働	他職種の役割と協働について学ぶ		
12	③終末期の介護 12. 終末期における介護の工夫	終末期における介護の工夫について学ぶ		
13	13. アセスメント	アセスメントについて学ぶ		
14	14. 医療との連携、終末期、臨終期の介護	医療との連携、終末期、臨終期の介護について学ぶ		
15	15. グリーフケア	グリーフケアについて学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第6巻 第7巻 第8巻 中央法規、適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅱ（居住環境の整備）		介護福祉学科/2年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	高吉 亮平
授業の概要				
・自立に向けた居住環境の整備を学び、対象となる人の生活ニーズの把握、具体化していく方法を習得する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活状況の理解、ニーズの優先順位の把握ができる。 ・生活空間の構成要素、意義、目的を理解できる。 ・ICFの視点に基づいて、居住環境を生活の流れの中で理解できる。 ・環境整備の具体的な進め方を知る。 ・他職種との連携のあり方を示すことができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①居住環境の整備の意義と目的 1. 居住環境の整備の意義と目的	居住環境の整備の意義と目的について学ぶ		
2	2. 自立に向けた居住環境の意義	人が安心して快適に暮らすために必要な整備とは何か、必要性を理解する		
3	②生活空間と介護 3. 居場所とアイデンティティ	高齢者や障害のある人の住まいの多様性について学ぶ		
4	4. 生活の場、すまい、住み慣れた地域での生活の保障	生活の場の考え方を理解する		
5	③居住環境のアセスメント 5. ICFの視点にもとづいた居住環境のアセスメント1	ICFと居住環境の整備におけるアセスメントの視点を学ぶ		
6	6. ICFの視点にもとづいた居住環境のアセスメント2	ICFと居住環境の整備におけるアセスメントの視点を学ぶ		
7	7. ICFの視点にもとづいた居住環境のアセスメント3	ICFと居住環境の整備におけるアセスメントの視点を学ぶ		
8	④安全で心地よい生活の場づくり 8. 安全に生活するための工夫	安全に生活するための工夫について学ぶ		
9	9. 安全に生活するための工夫	安全に生活するための工夫について学ぶ		
10	10. 住宅改修	住宅改修について学ぶ		
11	11. バリアフリー	バリアフリーについて学ぶ		
12	12. ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインについて学ぶ		
13	⑤施設等での工夫、留意点 13. ユニットケア	ユニットケアについて学ぶ		
14	14. 個室化、なじみの生活空間	個室化、なじみの生活空間について学ぶ		
15	⑥他職種との連携 15. 他の職種との連携	他職種との連携について学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第6巻 第7巻 第8巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅲ(被服)		介護福祉学科/2年	2021/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	白川江美
授業の概要				
・家庭生活の被服生活に関する実習を行い、具体的な家庭生活支援能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
・家庭経営(衣)に関する様々な技能実習を通して、技能の習得および、様々な利用者に応じた家庭生活支援能力を養い実践できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	①被服素材の理解 1. 被服素材の特徴及び鑑別の実験1	被服素材の特徴を素材モデルを使用し学習するとともに、実験を通じて素材の特性を知る		
2	2. 被服素材の特徴及び鑑別の実験2	被服素材の特徴を素材モデルを使用し学習するとともに、実験を通じて素材の特性を知る		
3	②被服実習 3. 被服実習1: 基本的技術の習得	被服実習で必要な基本技術を学ぶ		
4~10	4. 被服実習2: 衣類のリフォーム	衣類のリフォームを行う		
11~14	③デザイン 11. 老人・障害者のための被服デザイン	高齢者に喜ばれるデザインを考える		
15	④まとめ 15. 作品発表	作品を発表し、プレゼンテーションを行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜資料、プリント配布 介護福祉士養成講座 第6巻 中央法規出版		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読し、準備物の用意をしておくこと 【採点内訳】 作品評価: 80% 平常点: 20%

作成者: 渡辺 宏子

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅲ (調理)		介護福祉学科/2年	2021/後期	実習
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	渡辺 宏子
授業の概要				
・ 家庭生活の経営と管理、栄養、調理に関する実習を行い、具体的な家庭生活支援能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
・ 家庭経営 (食) に関する様々な技能実習を通して、基本的な技能を修得し、調理に関する生活支援ができるようになる。				
実務経験有無	実務経験内容			
	介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内 容		
1	①家庭生活の経営と管理 1. 家庭生活とは	家庭生活の意義について学ぶ		
2	2. 経営と管理	家庭生活における経営と管理について学習する		
3	②栄養と調理 3. 献立作成と栄養価計算	献立作成方法と、栄養価の計算方法を学習する		
4~ 15	4. 調理実習 1	調理実習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜資料、プリント配布		課題・レポート	10.0%	【事前準備】 事前にプリントを 熟読しておくこと
		実習・実技評価	90.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅲ(住居)		介護福祉学科/2年	2021/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	藤井真,堀内有
授業の概要				
・家庭生活の経営と管理、住生活に関する実習を行い、具体的な家庭生活支援能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
・高齢者や障害者に対して安全に生活できる環境を考えることができ、プレゼンテーションできる。				
実務経験有無	実務経験内容			
	介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	①バリアフリーおよび住生活 1.住生活の理解	バリアフリーのメリット、デメリットを学ぶことで、安全な住生活を学ぶ		
2	2.室内環境の整備	快適な室内環境の特徴を学ぶ		
3	3.住居管理、防災	安全に暮らすための住居を学ぶ		
4	4.老人、障害者に適した居宅	介護が必要な方の住居を学習する		
5~15	②住居実習 5.ノーマライゼーションの理念に適した住居1	住居模型を作成し、介護が必要な方の住まいを考える		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 作品評価：80% 平常点：20%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅳ 介護予防とレクリエーションⅡ		介護福祉学科/2年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	高吉 亮平
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> レクリエーション活動計画の作成および実施方法を学ぶ。 レクリエーション活動援助者の役割を理解する。 レクリエーション活動の実践を行なう。 				
授業終了時の到達目標				
レクリエーション計画を立案でき、自らレク支援を実践できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること			
時間外に必要な学修				
課題、配布プリントをしておくこと				
回	テーマ	内容		
1~2	①レクリエーション実技 1.福祉レクリエーション1	実際に服しレクプログラムを体験し、レクリエーション指導者としてのスキルを向上させる		
3~4	3.コミュニケーションワーク1	司会進行のスキルを身につける		
5~6	5.アイスブレイキング1	アイスブレイクを実際に学生に対して支援する		
7~8	7.支援実習1:企画	クラス内でレク支援を行うための企画を考える		
9~10	9.支援実習3:準備	実習の際に行うレクプログラムの準備を行う		
11~13	11.支援実習5:実践	クラス内でレク支援を行う		
14	14.支援実習8:評価	実践してみたの評価をグループワークで話し合う		
15	15.まとめ	レク支援のポイント、支援者の心構え、注意点などを解説する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
レクリエーション支援の基礎(財)日本レクリエーション協会 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト:6 0% 平常点:4 0%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護過程Ⅱ		介護福祉学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	堀内 有美
授業の概要				
・学生自身が知識や技術を統合し、ケアに活かすということの意味を理解し、個々の生活歴および現在の情報、利用者のニーズ等を勘案して介護計画を立案する。				
授業終了時の到達目標				
・ニーズの優先順位を考えることができ、そのニーズに応じた介護サービスや制度を選択でき、介護過程の展開ができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①生活歴 1.高齢者の現状理解、高齢者像の拡大	生活像からイメージを描き情報の立体化を学ぶ		
2~3	②情報分析 2.事例演習1:情報分析	事例演習(情報の分析)		
4~7	4.事例演習3:利用者ニーズの理解	事例演習(利用者のニーズの理解)		
8	③社会資源 8.事例演習7:社会資源の理解	事例演習(社会資源の理解①)		
9	9.事例演習8:社会資源の理解	事例演習(社会資源の理解②)		
10~11	④介護を支える制度 10.事例演習9:福祉制度と地域福祉援助技術	制度の活用について学ぶ		
12	12.事例演習11:家族、介護者を支える制度と社会資源の理解	事例演習(家族・介護者を支える制度の理解)		
13~14	⑤介護過程実践的展開 13.介護実習Ⅱで実施する介護過程の展開の実施についての確認1	事例をもとにアセスメント、統合化を行う		
15~17	15.介護過程の実践的展開の理解1	事例をもとに介護計画の立案を行う		
18~20	18.介護過程の実践的展開:実習を終えて振り返り	実習を終えて振り返り、計画修正		
21	⑥情報の共有化 21.情報の提供、共有、解釈	情報の共有化について理解する		
22~25	⑦アセスメントツール 22.アセスメントツールの解説	アセスメントツールを理解する		
26~28	⑧生活を継続させるための介護過程の展開 26.生活環境の変化を見据えた介護計画1	テーマに合わせた事例についてグループで検討		
29~30	29.サービス提供計画の理解1	サービス提供計画について理解する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第9巻 適宜資料、プリント配布		中央法規 総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト: 60% 平常点: 40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護過程Ⅲ		介護福祉学科/2年	2021/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	堀内 有美
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・学生自身が知識や技術を統合し、ケアに活かすということの意味を理解し、個々の生活歴および現在の情報、利用者のニーズ等を勘案して介護計画を立案し、ケアマネジメントシステムの流れ、各段階ごとの支援者の役割を理解する。 ・実習での経験をふまえて、専門職として実践的な「介護過程の展開」とは何かを理解し、必要なスキルを身につけ、他職種との連携における介護福祉士の役割を自覚し、自分自身の介護観を発展させる。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程Ⅰ、Ⅱで習得した内容を理解し、その計画の評価が正当なものかどうか判断できる。 ・インフォームドコンセントが理解でき、実行できる。 ・アセスメントツールがどのような視点で作られているか理解し、適切にアセスメントツールを活用できる。 ・ターミナルケアにおける計画を考えることができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①障害者の理解 1. 障害者の生活背景の理解	障害者の生活背景について学ぶ		
2	2. 障害者制度の理解	障害者制度について学ぶ		
3~4	3. 障害者の生活の理解 1	事例検討：障害者の生活を考える		
5	5. 障害の受容からエンパワメント	エンパワメントの考え方について学ぶ		
6	6. 障害者の自立生活を支える社会資源	障害者の自立生活を支える社会資源について学ぶ		
7~8	②介護過程の実際 7. 介護過程の実際1：体験談	事例を用いて介護過程を理解する		
9~10	9. 介護過程の実際2：事例演習(評価方法について)	事例演習：評価方法について学ぶ		
11	11. 介護過程の実際3：スーパービジョン	サービス担当者会議の意義・目的を学ぶ		
12	12. 介護過程の実際4：サービス担当者会議	サービス担当者会議の意義・目的を学ぶ		
13~17	13. 介護過程の実際5：チームアプローチ	チームアプローチにおける介護職の役割を学ぶ		
18	18. カンファレンスの重要性の理解	カンファレンスにおける介護職の役割を学ぶ		
19~20	19. インフォームドコンセント 1	尊厳を守るケアの観点からインフォームドコンセントの必要性を学ぶ		
21~22	④アセスメントツールの活用 21. アセスメントツールの分析 1	ICFのアセスメントツールによる情報収集の方法を学ぶ		
23~25	23. アセスメントツールの開発 1	グループワークによるアセスメントツールの開発		
26~28	⑤終末期 26. 終末期の介護過程 1	ターミナルケアにおける介護過程を学ぶ		
29~30	⑥まとめ 29. 介護過程と介護観について 1	介護過程と介護観について学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第9巻 規 適宜資料、プリント配布		中央法 課題・レポート	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護総合演習Ⅱ		介護福祉学科/2年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	堀内有,金井太
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> 様々な対象者への介護を理解するとともに、利用者の潜在的ニーズを把握し、施設の機能および役割を理解し、自立支援に向けたチームケアの意義と役割を理解する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 介護実習Ⅱ-②での施設概要と利用者ニーズを整理・理解でき、介護福祉士に求められる倫理性と専門性を明確化できる。 介護実習Ⅱ-②での振り返りや、他者とのディスカッション、プロセスレコードを通して自己を客観的に振り返り、次の実習に向けた課題を明確化にできる。 介護計画の立案ができる。 				
実務経験有無	実務経験内容			
有	介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること			
時間外に必要な学修				
配布プリントを確認しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①実習の意義、概要 1. 介護実習Ⅱ-②の意義と目的	介護実習Ⅱ②の意義と目的について説明する		
2	②ニーズの理解 2. 利用者の生活ニーズの理解 1	利用者ニーズを把握するためのポイントを説明し、事例を用いてニーズの理解をしてみよう。		
3	3. 利用者の生活ニーズの理解 2	グループワークを行い、正しくニーズ理解ができているか確認する		
4	4. 利用者の生活ニーズの整理	ニーズを最優順に整理する方法を学ぶ		
5	5. 利用者の生活ニーズの分析	利用社にとって最も大切なニーズを、統合化の中から分析する		
6	6. 介護計画の立案 1	生活ニーズが達成できる計画を立案する		
7	7. 介護計画の立案 2	グループワークで、完成した介護計画の修正を図る		
8	③倫理観 8. 介護福祉士の倫理観	介護福祉士としての倫理について学習する		
9	④個別ケアについて 9. 介護実習Ⅱ-②の振り返り 1 : ニーズの把握	実習Ⅱ②の振り返りを行うレポート作成		
10	10. 介護実習Ⅱ-②の振り返り 2 : 介護計画	介護計画をクラス内で分析し合い、修正する		
11	11. 介護実習Ⅱ-②の振り返り 3 : 介護計画	介護計画をクラス内で分析し合い、修正する		
12	⑤多様なサービスの理解 12. 様々なサービスの理解 1	介護施設で提供されている様々なサービスについて学習する		
13	13. 様々なサービスの理解 2	介護施設で提供されている様々なサービスについて学習する		
14	⑥まとめ 14. 事例検討 1	実習での事例を発表し、グループワークで話し合う		
15	15. 事例検討 2	実習での事例を発表し、グループワークで話し合う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第10巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護総合演習Ⅲ		介護福祉学科/2年	2021/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	堀内有,金井太
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の地域での役割と機能を理解し、利用者および家族のニーズを的確に把握し、介護過程を展開できる能力を養う。 ・利用者および家族のニーズに対する介護福祉士の役割、その他職種との協働の意義と役割を理解できる。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・実習Ⅱ-③において適切な介護過程を展開できる。 ・実習Ⅰ-②において地域に根ざした施設が理解できる。 				
実務経験有無	実務経験内容			
有	介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること			
時間外に必要な学修				
配布プリントを確認しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①実習の意義、役割 1. 介護実習Ⅱ-③の意義、目的	介護実習Ⅱ③の意義、目的を説明する		
2	②介護過程の展開 2. ニーズの抽出	事例を用いてニーズ抽出を行い、統合化を行う		
3	3. 介護計画の立案	事例を用いた介護計画を立案する		
4	4. 実施	実施方法について説明を行い、具体的な実施方法を検討する		
5	5. モニタリング	モニタリングの留意点を解説する		
6	6. 実習Ⅱ-③の振り返り	実習Ⅱ③のレポート作成		
7	③実習の意義、役割 7. 実習Ⅰ-②の意義、目的	実習Ⅰ②の意義、目的の説明		
8	④社会資源 8. 実習Ⅰ-②の振り返り	実習Ⅰ2のレポート作成		
9	9. 利用者ニーズに応じた社会資源とは	利用者ニーズに対応する社会資源を実践事例から考える		
10	10. 家族のニーズに応じた社会資源とは	家族ニーズに対応する社会資源を、制度の視点から学習する		
11	11. 地域のニーズに応じた社会資源とは	地域ニーズに対応する社会資源について、自分が住んでいる地域での取り組みを調べる		
12	⑤介護過程のまとめ 12. ニーズと介護計画	ニーズの抽出から介護計画の立案までのポイントを復習する		
13	13. 介護計画を実施するために	介護計画を実施するためにポイントを復習する		
14	14. モニタリングから再評価へ	モニタリング、再アセスメントにおけるポイントを復習する		
15	15. 地域と介護	現在の地域社会における介護問題を考える		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第10巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護実習 I		介護福祉学科/2年	2021/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	32回	1.40単位(64時間)	必須	堀内有,金井太
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の人物像の把握および、日常生活や生活環境、疾病、障害等を理解するために、基本的なコミュニケーション技術を習得し、介護職としての基本的態度、技術を養う。 ・地域に根ざした施設として、地域とどのように関わっているのかを理解するために、施設の役割、概要を知る。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の人物像の理解。 ・利用者の疾病、障害の理解。 ・積極的にコミュニケーションを図ることができる。 ・計画的な実習を取り組むことができる。 ・提供される介護の必要性を理解できる。 ・基本的な記録物の作成ができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~32	備考欄参照			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
事前に配布するマニュアル、プリント		実習・実技評価	100.0%	②介護実習I-②(2年後期:64時間) 地域に根ざした施設の役割を理解し、在宅および家族へのケアのあり方を実習を通じて学ぶとともに、個別性を理解したコミュニケーションを図るとともに、利用者のニーズを理解し、自立支援に向けた介護実践が展開できるよう、ケアマネジメントシステムに基づいたチームケアのあり方を学ぶ。 【実習施設】 訪問介護、老人介護支援センター、グループホーム、通所介護、通所リハビリ、特定施設入居者生活介護、小規模多機能型施設 ・地域ニーズを把握し、施設が地域にどのように貢献しているのかをワークシートにまとめる。 ・利用者および家族に対するケアを見学し、ケアのあり方についてワークシートに記入する。 ・ケアマネジメントシステムに基づくチームケアについて考察する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護実習Ⅱ		介護福祉学科/2年	2021/通年	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	120回	5.30単位(240時間)	必須	堀内有、金井太
授業の概要				
<p>・施設の役割を理解するとともに、様々な利用者の生活像および生活歴を把握し、介護過程の展開を図るための情報を収集し、ニーズの抽出、アセスメント、計画、実施、評価が一連の介護実践の中で実施できるための基本的な能力を養う。</p> <p>・利用者の生活のあり方について個別に考察し、自立支援に基づいた個別ケアを提供するための基本的技術を学ぶ。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の役割の理解。 ・利用者の生活像を理解するため情報収集ができる。 ・利用者ニーズを把握するための情報を分析できる。 ・福祉用具、福祉機器の知識を身につけ、実際に活用できる。 ・チームにおける各職種の役割について理解できる。 ・利用者個々の生活を考えた生活支援のあり方を理解することができる。 ・自立支援を考えた介護実践ができる。 ・一連の介護過程の展開ができる。 ・レクリエーションの実施。 ・ターミナルケアの理解を深める。 ・自己の介護観を高める。 				
実務経験有無		実務経験内容		
		介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~120	備考欄参照			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
事前に配布するマニュアル、プリント		実習・実技評価	100.0%	②介護実習Ⅱ-②(2年前期:120時間) 介護過程の展開を理解し、個別介護計画を作成することで、個別に援助することの重要性を理解し、利用者にあった介護計画の立案方法について学ぶ。 【実習施設】 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、身体障害者療護施設、障害者支援施設、救護施設 ・利用者ニーズ抽出のために、アセスメントシートを作成する。 ・介護計画の作成。 ・福祉用具、福祉機器の知識および使用方法の習得。 ・個性を考えた介護技術の習得。 ・チームケアのあり方を理解するために、ワークシートに記入する。 ・レクリエーションの実施。 ③介護実習Ⅱ-③(2年後期:120時間) 実際に立案した介護計画を実施し、モニタリング作業を通じて介護過程の展開の意義を理解する。また専門職としての介護技術を習得し、その場に応じた応用技術を身につける。 【実習施設】 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、身体障害者療護施設、障害者支援施設、救護施設 ・一連の介護過程(計画作成→実施→評価→修正)の展開を実施する。 ・ターミナルケアの理解を深める。 ・レクリエーションの実施。 ・家族支援のあり方について理解を深める。 ・自己の介護観についてまとめる。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
障害の理解Ⅱ(視覚障害者の理解)		介護福祉学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	堀内有, 西林
授業の概要				
視覚障害をもつ者の気持ちを理解しようと努め、支援について考える能力が身につく。 点字の基礎を習得する。				
授業終了時の到達目標				
視覚障害者の特性の理解ができ、点字を含めて支援のあり方を考えることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
		介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	視覚障害者とは、点字とは、点字学習をする上のポイントを説明する		
2	点字の仕組みの前置点について	前置点について学習する		
3	文章に答えてクイズをしましょう	点字の文字をクイズ形式で読んでみる		
4	仮名使いについて	仮名の使い方を学習する		
5	点字の読み方について	点字の読み方について学習する		
6	視覚障害者の接し方	視覚障害者の接し方、サポート仕方を学ぶ		
7	点字の読み書きについて	点字で実際に文章を作ってみる		
8	点字の書き方について	点字で実際に文章を作ってみる		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第14巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	①視覚障害者の特性について 先天障害と中途障害 視覚障害者の実態 ②点字、点訳の基礎知識 点字の歴史 点字の仕組み 「語」の表し方 分かち書き 記号、符号の使い方 書き方の形式 ③点字、点訳の実習 【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
障害の理解Ⅱ（聴覚障害者の理解）		介護福祉学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	藤井真, 西林
授業の概要				
聴覚障害をもつ者の気持ちを理解しようと努め、支援について考える能力が身につく。手話の基礎を習得する。				
授業終了時の到達目標				
聴覚障害者の特性の理解ができ、手話を含めて支援のあり方を考えることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
		介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	先天障害と中途障害	聴覚障害における先天障害と中途障害の違いを学習する		
2	聴覚障害者の実態	聴覚障害者の生活について説明を行う		
3~7	手話とは	ジェスチャーを使って気持ちを伝えよう		
8	手話演習	基本的な手話を活用し自己紹介を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第14巻 中央法規 適宜資料、プリント配布 聴さんと学ぼう！ 一般財団法人全日本ろうあ連盟		総合評価	100.0%	①聴覚障害者の理解 先天障害と中途障害 聴覚障害者の実態 ②手話とは 指文字、手話、口語、身ぶり、空書きなどの総称 手話はイメージで表現する 手の動く方向、手の位置、顔の表情 ③手話演習 出席率、解題等加味する。 【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
障害の理解Ⅱ		介護福祉学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西林 久美子
授業の概要				
障害のある人の心理や身体機能に関する基礎知識を習得し、障害について身体的・心理的に理解ができる。				
授業終了時の到達目標				
障害のある人の理解が深まり、支援について考えることができるようになる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること			
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内 容		
1	障害の医学的側面の基礎知識	視覚障害のある人の生活		
2	障害の医学的側面の基礎知識	聴覚、言語障害のある人の生活		
3	障害の医学的側面の基礎知識	重複障害のある人の生活		
4	障害の医学的側面の基礎知識	肢体不自由のある人の生活		
5	障害の医学的側面の基礎知識	知的障害のある人の生活		
6~7	障害の医学的側面の基礎知識	高次機能障害のある人の生活		
8	障害の医学的側面の基礎知識	発達障害のある人の生活		
9	障害の医学的側面の基礎知識	重症心身障害のある人の生活		
10	障害の医学的側面の基礎知識	内部障害のある人の生活		
11	障害の医学的側面の基礎知識	難病のある人の生活		
12~13	障害のある人の心理	障害の受容についての心理過程を学ぶ		
14~15	知的障害者・精神障害者の医学的側面	知的障害、精神障害について学習する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第14巻 障害の理解 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前学習】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト: 60% 平常点: 40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
医療的ケア		介護福祉学科/2年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	12回	0.60単位(24時間)	必須	阿部 美知子
授業の概要				
演習(4人ずつ実施×12時間) 喀痰吸引:口腔、鼻腔、気管カニューレ内部を各5回以上実施 経管栄養:胃ろう又は腸ろう、経鼻経管栄養を各5回以上実施 救急蘇生法演習1回				
授業終了時の到達目標				
医療的ケア(喀痰吸引・経管栄養)を安全かつ適切に実施するために必要な知識、技術を学ぶ				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
手順のDVDを見ておくこと				
回	テーマ	内 容		
1	喀痰吸引	喀痰吸引(口腔)演習		
2	喀痰吸引	喀痰吸引(鼻腔)演習		
3	喀痰吸引	喀痰吸引(気管カニューレ内部)		
4	喀痰吸引	喀痰吸引演習最終チェック		
5	経管栄養	経管栄養(経鼻経管)演習		
6	経管栄養	経鼻経管(胃ろう・腸ろう)演習		
7	経管栄養	経鼻経管最終チェック		
8	喀痰吸引、経鼻経管	喀痰吸引、経鼻経管まとめ		
9	救急蘇生法演習	救急蘇生法演習		
10				
11				
12				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第15巻 適宜プリント・資料配付		実習・実技評価	100.0%	【事前準備】 テキスト、手順DVD を見ておくこと

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅲ(家事)		介護福祉学科/2年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	渡辺 宏子
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・在宅ケアのあり方を理解し、利用者、家族に対しての生活支援の方法を学ぶ。 ・生活経営について理解し、生活マネジメント能力を養う。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・生活、生活形成のプロセス、生活経営等を理解し、実際の生活支援において具体的アプローチができるようになる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
		介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	①家事の意義、目的 1. 家事の意義、目的 1	家事の意義について学習する		
2	2. 家事の意義、目的 2	家事の目的について学習する		
3	3. 生活について 1	生活における家事の重要性について学習する		
4	4. 生活支援	IADLの支援について学習する		
5	②アセスメント 5. ICFの視点にもとづくアセスメント 1	IADLに関するアセスメント方法を学習する		
6	6. ICFの視点にもとづくアセスメント 2	IADLに関するアセスメント方法を学習する アセスメントシートを記入する		
7	③家事の介助の技法 7. 家事意欲について	家事意欲を高めるための支援方法を学習する		
8	8. 家事意欲を高める介護の工夫	家事意欲を高めるための、コミュニケーション、環境整備について学ぶ		
9	9. 調理(加工食品の活用と保存、配食サービス等のサービスについて)	食品の保存方法について学習する		
10	10. 衛生管理	食中毒等の危険性を学び、衛生管理方法を学習する		
11	11. 家庭経営	家庭経営について学習する		
12	④利用者の状態、状況に応じた介助の留意点 12. 感覚機能が低下している人の介助の留意点	感覚機能が低下している人の家事支援方法について学ぶ		
13	13. 運動機能が低下している人の介助の留意点	運動機能が低下している人の家事支援方法について学ぶ		
14	14. 認知、感覚機能が低下している人の介助の留意点	認知、感覚機能が低下している人の家事支援方法について学ぶ		
15	⑤他職種の役割と協働 15. 他職種の役割と協働	他職種と協働し、家事支援方法を学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第6巻 第7巻 第8巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト: 60% 平常点: 40%